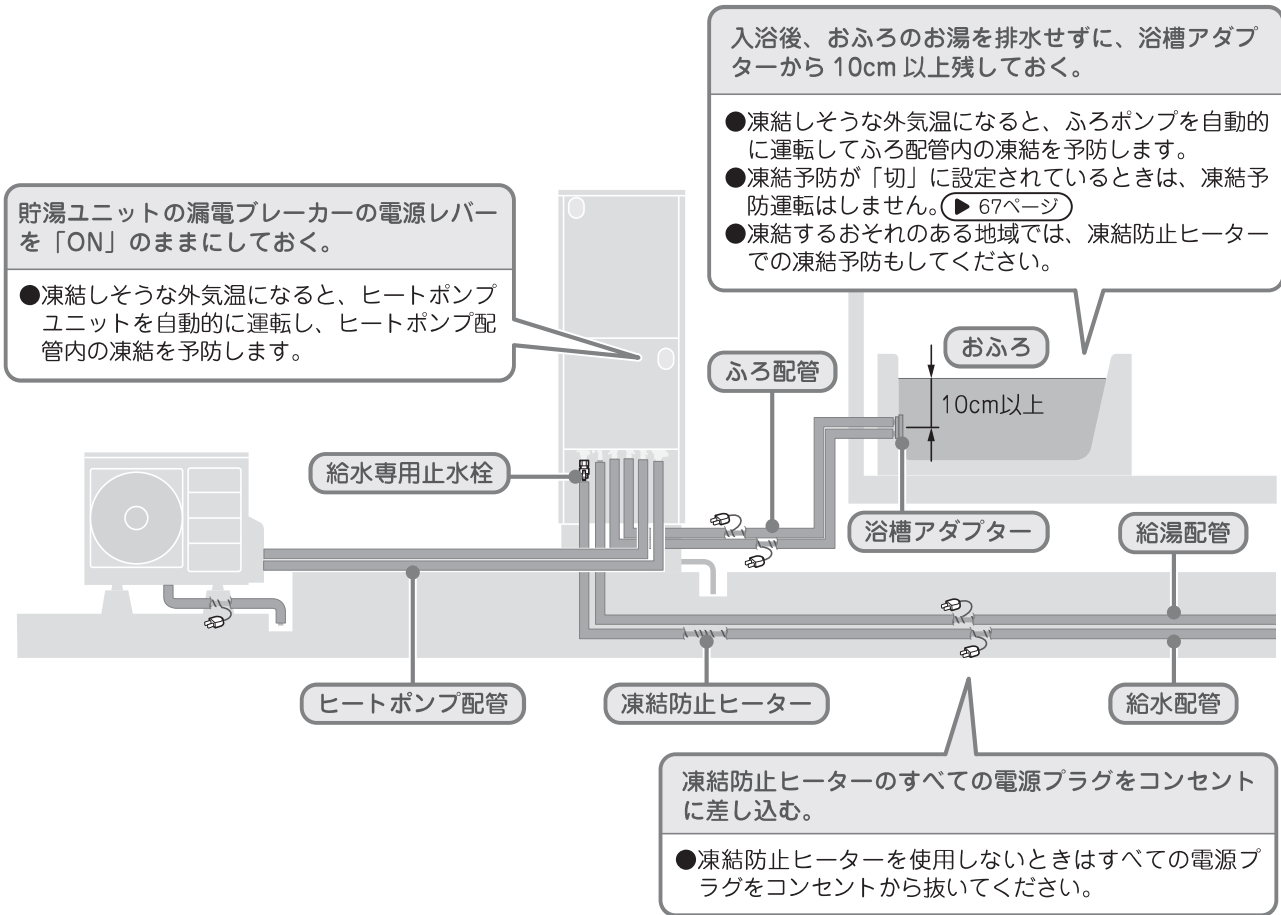


凍結のおそれがあるとき

凍結予防について

冬期は暖かい地域でも、給水・給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプ配管内の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。お買い上げの販売店へ相談し、適切な凍結防止対策をしてください。



⚠警告

- お湯を使うときは、お湯の温度を確認する
入浴時やシャワー使用時は、指先などで湯温を確かめないとやけどの原因となります。

⚠注意

- 配管の保温工事、不凍結水栓、凍結防止ヒーターなど凍結防止対策を確認する
正しく工事されていないと配管が破損して水漏れややけどの原因になることがあります。販売店または工事店にご確認ください。



アドバイス

- 配管が凍結した場合は、気温の上昇により自然解凍されるまでお待ちください。
- 配管の破裂・水漏れがある場合は給水専用止水栓を閉じて販売店（据付工事店）へご連絡ください。
- ふろ自動保温または追いだき終了後、入浴中でもふろ凍結予防運転が働き、配管内の冷めたお湯がお風呂に出ることがあります。
- 残り湯があるときは、ふろ配管の凍結予防の条件になると繰り返し凍結予防運転をします。
- 残り湯が少ないときや、残り湯がないときは、凍結予防運転中に浴槽アダプターからポコポコと音がしたり、水が出たりすることがありますが異常ではありません。
- ふろ配管は必ず保温材を巻くなどして凍結予防の処置をしてください。また、貯湯ユニットや浴槽アダプターとの接続部が露出していると、凍結のおそれがありますので必ず保温してください。
- 休止設定中でも、配管の凍結予防のため、ヒートポンプユニットを運転することがあります。

凍結予防の設定をする

凍結予防

凍結予防を「入」に設定すると、外気温が低くなったときにふろポンプが自動で運転し、ふろ配管の凍結を予防します。(初期設定：入)

浴室リモコン



- 1 **メニュー決定** を押す。
 - 2 **◀▶** で「次へ」を選び、**メニュー決定** を押す。
 - 3 **◀▶** で「諸設定」を選び、**メニュー決定** を押す。
 - 4 **◀▶** で「凍結予防」を選び、**メニュー決定** を押す。
 - 5 **◀▶** で「入」を選び、**メニュー決定** を押す。
- [メニュー決定]を押すか、3秒経過すると、通常表示に戻ります。

■ ふろ凍結予防運転をしないとき

- ① もう1度、手順1～4を行う。
- ② 手順5で「切」を選び、[メニュー決定]を押す。



アドバイス

- 凍結予防は「入」に設定してご使用いただくことをおすすめします。
凍結予防を「切」に設定すると、ふろ配管の凍結予防運転をしないため、ふろ配管が凍結することがあります。
必ず、ふろ配管の凍結防止ヒーターの追加、保温材の追加など、十分な処置をしてください。
(凍結予防対策をしない、または不十分な対策により、ふろ配管が凍結したときの修理は有料です)